

近森リハビリテーション病院 臨床栄養部

科長 上村 二美

人事

2024 年も人の入れ替わりが多い 1 年でした。10 月と 12 月に管理栄養士 2 名が退職し、その代わりに管理栄養士 2 名が近森病院より近森リハビリテーション病院へ異動となりました。

委託側のエームサービスも、調理師 1 名が近森病院へ異動となり、その代わりに調理師 1 名が入職しました。またパート職員 4 名が入職され、1 名が退職となっています。パート職員に関しては、欠員状態で業務を行っていましたが、3 名雇用で少しは緩和されています。しかし、人員としてはまだ 1 名程度足りていない状態が続いています。

栄養指導

4 月より 4 西病棟が回復期リハビリテーション病棟の入院料Ⅲとなり栄養指導の加算が算定できなくなりました。整形の患者さんが増え特別食加算の患者さんが減ったため、栄養指導件数も減少しています。昨年度より 28 件少ない 509 件となりました。

NST

NST 活動も 22 年目となりました。4 月より診療報酬改定により GLIM 基準による低栄養診断評価が必要となり、看護師のスクリーニングも（MST・独自の NST）スクリーニングへ変更行いました。1 年間の NST 介入件数は 458 件と前年度より 9 件少なくなっています。

VF 検査

嚥下機能の評価になる VF 検査は 287 件と前年度より 13 件少なくなっています。1 日平均 1.5 名の VF 検査が行われ、VF 検査の FAX の締め切り時間に関しても今年度も時間外オーダーはありませんでした。

診療報酬改定

今年は診療報酬改定があり、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 について、入退院時の栄養状態の評価に GLIM 基準による低栄養診断を用いることが要件となりました。GLIM 基準を用いるため、栄養スクリーニングとして MST・NST を一緒にスクリーニングできるように変更しました。GLIM 基準を用いることが要件となり、それに伴い栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養管理計画書の改定を行いました。

まとめ

今年も昨年同様に異動や退職・入職の多い年となりました。入れ替わりの多い中でも診療報酬改定に向け、帳票類の改定を行い 6 月に間に合わせる事が出来ました。

11 月には保健所監査があり、マニュアルの変更・改定を行いました。その結果、口頭指示・文書指摘なく監査終了しました。

給食関連に関しては、昨年同様に様々な食料品の値上げが相次ぎました。特に米の物価上昇は大きく、夏場には量販店からお米が消える騒ぎとなりました。また、12 月には夕食に提供を行っていた果物の廃止が決定され、果物の提供が無くなりました。

人件費の高騰も伴い、委託契約しているエームサービスとの交渉も年末ぎりぎりまで行われました。

25 年度の給食経営改革として以下について取り組みを行っていきます。

目的 食事サービスの維持を図りつつ、徹底したコスト削減による持続可能な給食経営の実施

目標 1 年間で 2000 万円のコストを削減し、2026 年度は現行委託契約費の継続

手段 1、慣例に捉われない食事基準の見直しと献立業務の実施

2、徹底したコスト削減の意識と実施

3、近森会をあげての給食経営改革の遂行

その他に「いのちのスープ」に関しては、3 回の提供を行うことが出来ました。物価高騰等の理由から 2006 年 8 月より開始され、19 年間提供行った「いのちのスープ」を休止することとなりました。

表 1：年の主な出来事

1 月	・辰巳芳子さんの「いのちのスープ」提供 (カリフラワーのポタージュ)
4 月	・辰巳芳子さんの「いのちのスープ」提供 (アスパラガスのポタージュ)
6 月	・辰巳芳子さんの「いのちのスープ」提供 (ボンファム)
11 月	・保健所監査

表 2：給食状況報告

一般食	常食	26267 食	16%
	全粥	13869 食	8%
	分粥食	81 食	0%
	流動食	0 食	0%
特別食	加算	80101 食	49%
	非加算	44407 食	27%
合計		164698 食	100%

表 3：栄養指導件数

入院指導	509 件
外来指導	0 件

表 4：職員配置数

病院	管理栄養士 4 名			
給食委託業者	管理栄養士	1 名	栄養士	4 名
	調理師	2 名		
	非常勤	11 名		